

SYMPHONY

 TOKYO
SYMPHONY
ORCHESTRA
Lorenzo VIOTTI, Music Director


ANNIVERSARY

NO.150

TUE. 7TH JULY
TOKYO OPERA CITY SERIES

NO.743

SAT. 18TH JULY
SUBSCRIPTION CONCERT

NO.147

SUN. 19TH JULY
NIIGATA SUBSCRIPTION CONCERT

2026
JULY

7

音楽監督 ロレンツォ・ヴィオッティ
桂冠指揮者 ユベール・スダーン
名誉客演指揮者 大友直人
永久名誉音楽監督 秋山和慶 ◆
永久名誉指揮者 アルヴィド・ヤンソンス ◆
上田 仁 ◆
遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター 大谷康子

第1コンサートマスター 小川ニキティングレブ
景山昌太郎
小林竜成

コンサートマスター 吉江美桜
田尻 順

会 長 澤田秀雄
理事長 岡崎哲也
副理事長 平澤 創
依田 異
専務理事 廣岡克隆
理 事 阿部武彦 竹中平蔵
池辺晋一郎 永山 治
伊藤美樹 夏野 剛
大橋 博 増岡聡一郎
コシノジェンコ 森 京子
菅谷貴子 若本博隆
監 事 寺西基之
渡邊芳樹
評議員長 梅沢一彦
評議員 穴水 孝 星 久人
鷺海量明 森川 智
片山泰輔 芳野まい
加藤英輔
特別顧問 飯島延浩 福田紀彦
窪田雅己
永久名誉顧問 金山茂人 ◆

1st Violins

○木村正貴
○堀内幸子
○森岡ゆりあ
小川敦子
立岡百合恵
土屋杏子
中村楓子
水谷有里
吉川万理

2nd Violins

○清水泰明
○服部亜矢子
○加藤まな
○福留史紘
河裾あずさ
小山あずさ
鈴木浩司
吉田みのり
阿部真弓
坂井みどり

Violas

○青木篤子
○武生直子
○西村真紀
○多井千洋
○山廣みほ
新井瑞穂
小西応興
鈴木まり奈

Cellos

☆伊藤文嗣
○川井真由美
内山剛博
蟹江慶行 ●
樋口泰世
福岡茉莉子
渡邊ゆかり

Double Basses

■助川 龍
○コーディネーターズ・ブーム
○北村一平
○久松かず
内岡沙月
安田修平
渡邊淳子

Flutes

■相澤政宏
○竹山 愛
○知久 翔*

Flute & Piccolo

濱崎麻里子

Oboes

○荒 給理子
○荒木良太
浦脇健太

Clarinets

○エマニエル・スズー
○吉野亜希菜
近藤千花子
務川広貴

Bassoons

○福士マリ子
○福井 蔵
坂井由佳
前関祐紀

Horns

○上間善之
白井有琳
藤田麻理絵
津守隆宏*

Trumpets

○澤田真人
○ローリー ディラン
野沢岳史 ●
松山 萌
早野舞花*

Trombones

○大馬直人
○鳥塚心輔
住川佳祐

Bass Trombone

藤井良太

Tuba

近藤陽一

Timpani & Percussions

○清水 太
○山村雄大
武山芳史
綱川淳美

Harp

渡辺沙羅

Librarians

林 知也
カーン日和*

Stage Managers

西岡理佐
山本 聡

栄誉団員

井伊 準 ◆

楽団長

廣岡克隆

編成局シニアディレクター

藤原 真

編成局

パーソネルマネージャー

謝名元 民

楽団委員

小西応興(議長)
浦脇健太(書記)
清水 太
清水泰明
鈴木浩司
綱川淳美

事務室長

荒井宣之

事務局

□高瀬 緑
市川萌都
伊藤瑛海
榎 日向
小川博司
桐原美砂
後藤絢音
長久保宏太郎
三橋真琴
山田道子
山本未央子
■梶川純子
澤戸雅美*

名誉団員

深江泰輔 ◆
三木謙雄 ◆

団 友

大野佳和
安藤史子
池田 肇
石川晴弘世
今村和弘
岩澤淳子
土原規照
土原末莉
内田彬雄
内田乃例子
宇都 実
梅田 学
大隅雅人
大塚正男
大生廣男
大和田浩明
大和ルース
荻野 昇
奥田昌史
音川健二
加藤谷直美
笠原勝二
甲斐さち
加藤幸子
加藤啓吾
金澤 茂
久保田一穂
熊谷仁士
黄原亮司
小林照雄
小林利彰
小林亮子
阪本正彦
佐川聖二
佐々木真
塩谷しずか
篠崎 隆
菅野明彦
杉浦直基
鈴木一輝
曾根敦子
高野成之
武田英昭
田中貴輔
千村雅信
十亀正司
黒山 佑
永井聖乃
中塚和良
中塚博則
中山 智
新澤義美
西依智子
西脇秀澄
野村貴澄
熊崎隆弘
原田美保子
日野 奏
ペアンテ・ボーマン
前田健一郎
松崎里絵
丸山正昭
三浦正信
宮原祐子
宮本直樹
宮本 睦
森みさ子
諸橋健久
渡辺 功
渡辺哲郎
渡辺裕子

演奏会でのお願い

Concert Manner Guide



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

チケットに記載されている座席番号にのみ有効です。
座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



開演前に電子機器の 電源はOFFに

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.



補聴器の確認を

ご使用のお客様は、きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を持ち出での鑑賞や、つばの広い／高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。リズムをとる行為もおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.



演奏中の飲食は ご遠慮ください

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご配慮下さい。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause or shouting your appreciation until the actual end of the performance.



カーテンコールを除いて、ホール内での録音・録画・写真撮影は禁止です

終演後のカーテンコールの撮影は、自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。※スマートフォン、携帯電話、コンパクトデジタルカメラ以外の撮影、自撮り棒の使用、フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

Photography, filming and recording are prohibited, but it is permitted to film the curtain call after the concert. Photography is not permitted at the end of the first half or during encore performances. Please refrain from taking pictures with cameras other than smartphones and mobile phones, using selfie sticks, using flash, and taking pictures at eye level or higher.

7/7

TUE

東京オペラシティシリーズ 第150回

2026年7月7日(火) 19:00 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.150

Tue. 7th July 2026, 19:00 Tokyo Opera City Concert Hall

大植英次[指揮]

景山昌太郎[コンサートマスター]

OUE Eiji, Conductor

KAGEYAMA Shotaro, Concertmaster

ベートーヴェン:交響曲 第6番 ヘ長調
op.68 「田園」(45')

- I. 田舎に到着した時の嬉しい感情の目覚め
 II. 小川のほとりの情景
 III. 田舎の人たちの楽しい集い
 IV. 雷雨、嵐
 V. 羊飼いの歌(牧人の歌)、嵐の後の喜びと感謝の気持ち

休憩(20')

ブラームス:交響曲 第2番 二長調
op.73(45')

- I. アレグロ・マ・ノン・トロッポ
 II. アダージョ・ノン・トロッポ
 III. アレグレット・グラツィオーソ
 IV. アレグロ・コン・スピリト

BEETHOVEN : Symphony No.6 in F major
op.68 "Pastoral" (45')

- I. Angenehme, heitere Empfindungen, welche bei der Ankunft auf dem Lande im Menschen erwachen: Allegro ma non troppo
 II. Szene am Bach: Andante molto moto
 III. Lustiges Zusammensein der Landleute: Allegro
 IV. Donner. Sturm: Allegro
 V. Hirtengesang Wohltätige, mit Dank an die Gottheit verbundene Gefühle nach dem Sturm: Allegretto

Intermission(20')

BRAHMS : Symphony No.2 in D major
op.73(45')

- I. Allegro ma non troppo
 II. Adagio non troppo
 III. Allegretto grazioso
 IV. Allegro con spirito

●主催/公益財団法人 東京交響楽団

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

楽曲解説はP.5をご覧ください



©飯島隆

OUE

Eiji

Conductor

大植英次

[指揮者]

大阪フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者、ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー名誉指揮者。桐朋学園で齋藤秀雄に師事。1978年、小澤征爾の招きでアメリカ・タングルウッド・ミュージック・センターに学び、ニューイングランド音楽院指揮科に入学。タングルウッド音楽祭でレナード・バーンスタインと出会い、以後世界各地の公演に同行し助手を務めた。これまでにエリー・フィル音楽監督、ミネソタ管音楽監督、ハノーファー北ドイツ放送フィル首席指揮者、バルセロナ響音楽監督、大阪フィル音楽監督、ハノーファー音楽大学終身正教授等を務めた。2005年『トリスタンとイゾルテ』で日本人指揮者として初めてバイロイト音楽祭を指揮し、大きな注目を集めた。『星空コンサート』や『大阪クラシック』のプロデュースでも知られる。レコーディングも活発に行い、2004年にはアージェント作品集『グイーディの館』でグラミー賞を受賞。2009年ニーダーザクセン州功労勲章受章。

Music Director Laureate of the Osaka Philharmonic Orchestra and Honorary Conductor of the NDR Radiophilharmonie. He studied under Hideo Saito at Toho Gakuen School of Music. In 1978, at the invitation of Seiji Ozawa, he attended the Tanglewood Music Center and later entered the conducting program at the New England Conservatory. At the Tanglewood Music Festival, he met Leonard Bernstein and subsequently served as his assistant on concert tours around the world.

He has held posts including Music Director of the Minnesota Orchestra and the Osaka Philharmonic Orchestra, Chief Conductor of the NDR Radiophilharmonie, and Music Director of the Barcelona Symphony Orchestra. In 2005, he became the first Japanese conductor to conduct at the Bayreuth Festival with Tristan und Isolde, attracting international attention. He is also known for producing "Osaka Classic." In 2004, he won a Grammy Awards for the Argento collection Casa Guidi, and in 2009 received the Lower Saxony Order of Merit.

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)

交響曲 第6番 ヘ長調 op.68「田園」

《田園交響曲または田舎の生活の追想。絵画というより感情の表現》—これが作品の本来の題名だ。本作品は「性格的交響曲」という音楽外的事物を管弦楽で表す楽種に列し、その典型的な題材は歴史的出来事、神話、そして自然である。

当時の器楽交響曲は4楽章構成が典型だが、性格的交響曲の楽章数は不定で、《田園》と共通の題材に拠る自然描写を行ったJ. H. クネヒトによる性格的交響曲も5楽章構成である。もっとも、ベートーヴェンは、4楽章構成の交響曲に則して《田園》各楽章のタイプを選んだ。

第1楽章はソナタ形式。冒頭の旋律動機が楽章の至る所で展開される手法や、楽章冒頭数小節でのフェルマータは第5番交響曲にも通じる。この旋律動機の歩行を思わせる身振りや長閑な曲調は、ウィーン郊外の自然豊かなハイリゲンシュタットを想起させる。

続く緩徐楽章では、タイトルに相応しく弦楽器を中心にせせらぎが表現される。鳥の啼き声は第1楽章より盛んになり、コーダでは楽譜上にも「小夜啼鳥」、「鶉」、「カッコウ」と明記される。また、チェロが二分される楽器法は斬新で、音響上のこだわりが窺える。

3部形式の第3楽章はスケルツォに相応。軽快な主部とバグパイプのような継続音が特徴的なトリオでは、それぞれ別種の舞踏が想像され、もしそうなら、舞曲楽章メヌエットの伝統も踏んだか。し

かし人々の集いは雷雲の到来で妨げられ、アタッカで嵐の第4楽章へ。ここでは雨の降り始めを示すヴァイオリンの音形が楽章の終わりにテンポを落として再現することで天候の回復を描く点や、連符の数を互いにずらして同時に演奏する低弦が強風を表す点などが、作曲家の描写能力として特筆される傾向があった。しかし実は、ベートーヴェンが音楽的信頼を置いたP. ヴラニツキの二短調交響曲の終楽章「嵐」に類似手法の先例が見つかる。さらに《田園》の第5楽章では、天候回復の後に羊飼いのランデヴァッシュを模して管楽器が短い音形を吹き交わすが、ヴラニツキはこの動機の応答を含め、その他にも《田園》に通じる技法を用いているのだ。

ところでタイトルの「絵画ではなく」という言葉の意味は？確かに作品は単なる情景描写ではない。上述のクネヒトの曲やJ. ハイドンのオラトリオと同様、《田園》にも自然の脅威と安寧へ至った晴天下での神への感謝という宗教的な内容がある。《田園》は内容的にも作曲法上も、同時代の音楽の諸相も知らせてくれる。

丸山瑤子 Text by MARUYAMA Yoko

作曲:1807~1808年

初演:1808年12月22日 アン・デア・ヴィーン劇場

編成:ピッコロ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン2、ティンパニ、弦5部

ヨハネス・ブラームス(1833~1897)

交響曲 第2番 二長調 op.73

よく知られているように、ブラームスは交響曲の作曲にきわめて慎重だった。第1交響曲第1楽章の草稿を書き下したのは1863年頃だったが、全体を完成させたのは1876年秋のことだった。11月4日にこれを初演した後、ブラームスはドイツの各都市やウィーンを巡演しながら修正を重ね、1877年5月末に出版にこぎつけた。

こうして第1交響曲に関連する事柄から解放されたブラームスは、休暇のために6月9日からヴェルター湖畔の村ペルチャッハに逗留した。滞在中に新しい交響曲を着想した彼は、9月にリヒテンタールへ移って本格的に作曲に取りかかった。10月初旬には半分ほどを完成し、20日に出版者ジムロックへ宛てた手紙において総譜の完成を報告している。着想から完成までに要した時間はわずか5ヶ月で、第1番の時とは対照的に、非常に短期間で完成に至った。

この第2交響曲は、ブラームスの4つの交響曲で唯一コントラファゴットに代わってバス・テューバが用いられている。実は、当初はどちらの楽器も用いられていなかったが、作曲が第4楽章のコーダに差しかった段階で低音金管楽器の補強が必要となり、テューバが加えられたのである。この時、すでに総譜を書き上げていた第1楽章もテューバ付きに改められた。テューバの導入は、楽曲全体の音色的特徴にも影響を与えることになったのである。

この交響曲は、ホルン、オーボエ、クラリネットなど森や自然を想起させる響きが多用され、田園的あるいは牧歌的な音調を基調としている。しかし第1楽章から第3楽章までは、こうした朗らかな響きを主体としながらも、不意に挿入される短調和声やトロンボーンとテューバの陰影ある音色、あるいは高音域のチェロやヴィオラによる緊張を帯びた響きによって、しばしば翳が差し込む。それに対して第4楽章は、快活で明朗な響きに満ちている。展開部では短調へ変転するものの、終結部では二長調のファンファーレが鳴り響き、それまで翳の役割を果たしていたトロンボーンが主和音を高らかに吹き鳴らし、自然讃歌的な昂揚のうちに幕となる。

岡田安樹浩 Text by OKADA Akihiro

作曲:1877年

初演:1877年12月30日ウィーン楽友協会大ホール、ハンス・リヒター指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、弦5部

7/18 7/19

SAT

SUN

第743回 定期演奏会

2026年7月18日(土) 18:00 サントリーホール

Subscription Concert No.743

Sat. 18th July 2026, 18:00 Suntory Hall

第147回 新潟定期演奏会

2026年7月19日(日) 17:00 リューとぴあ 新潟市民芸術文化会館 コンサートホール

Niigata Subscription Concert No.147

Sun. 19th July 2026, 17:00 Ryutopia Concert Hall

ロレンツォ・ヴィオッティ [指揮]

小林 亨成 [コンサートマスター]

Lorenzo VIOTTI, Conductor

KOBAYASHI Issey, Concertmaster

ブラームス:交響曲 第3番 ヘ長調 op.90
(40')

- I. アレグロ・コン・ブリオ
- II. アンダンテ
- III. ポコ・アレグロ
- IV. アレグロ

休憩(20')

ドヴォルザーク:交響曲 第7番 二短調
op.70 (42')

- I. アレグロ・マエストーソ
- II. ポコ・アダージョ
- III. スケルツォ:ヴィヴァーチェ
- IV. フィナーレ:アレグロ

BRAHMS : Symphony No.3 in F major op.90
(40')

- I. Allegro con brio
- II. Andante
- III. Poco allegretto
- IV. Allegro

Intermission(20')

DVOŘÁK : Symphony No.7 in D minor
op.70 (42')

- I. Allegro maestoso
- II. Poco adagio
- III. Scherzo: Vivace
- IV. Finale: Allegro

- 主催/公益財団法人東京交響楽団(7/18)、公益財団法人新潟市芸術文化振興財団、UX新潟テレビ21(7/19)
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会(7/18)
文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会(7/19)
- 後援/在日スイス大使館(7/18)

新潟定期演奏会は、新潟市から補助金の交付を受けて実施しています。

楽曲解説はP.9をご覧ください



7/18 7/19

SAT

SUN



© Jan Willem Kaldenbach

Lorenzo VIOTTI

Conductor

ロレンツォ・
ヴィオッティ

[指揮]

Music Director

音楽監督

1990年スイス・ローザンヌ出身。リヨンでピアノ、歌、打楽器を学び、ウィーンでゲオルク・マルクの指揮者コースに参加。さらにリスト音楽院でニコラ・パスケに師事し、本格的に指揮の研鑽を積んだ。2015年ザルツブルク音楽祭ネスレ・ヤング・コンダクター賞を受賞し、一躍国際的注目を集める存在となる。さらに国際オペラ・アワード「ニューカマー・オブ・ザ・イヤー」にも選出され、国際的に急速に注目を集めた。

2018年新国立劇場でプッチーニ《トスカ》を指揮し、日本においても高い評価を得た。2018年から2021年までポルトガル・グルベンキアン管弦楽団首席指揮者、2021年から2025年までネーデルラント・フィルハーモニー管弦楽団およびオランダ国立歌劇場首席指揮者を務め、オーケストラとオペラの両分野で国際的キャリアを確立した。

ベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ミュンヘン・フィル、ロサンゼルス・フィルなど、世界有数のオーケストラへも客演を重ねている。

東京交響楽団とは2014年に衝撃的なデビューを飾り、初共演から10年となる2024年8月に次期音楽監督に任命され、2026/27シーズンより第4代音楽監督に就任。2028年8月からはチューリッヒ歌劇場音楽総監督に就任する。

Born in Lausanne, Switzerland in 1990, he is an award-winning conductor, having won major competitions including the Cadaqués Orchestra and MDR Conducting Competitions, and receiving the Nestlé Young Conductors Award at the 2015 Salzburg Festival. He served as Chief Conductor of the Gulbenkian Orchestra (2018–2021) and later of the Netherlands Philharmonic Orchestra and Dutch National Opera (2021–2025). He has conducted leading orchestras such as the Vienna and Berlin Philharmonics, Royal Concertgebouw, and Los Angeles Philharmonic, and appeared at major opera houses including Vienna State Opera, Paris Opera, and La Scala. He debuted in Japan with the Tokyo Symphony Orchestra in 2014 and becomes 4th Music Director in April 2026.

He will become the General Music Director of the Zurich Opera House from August 2028.

ヨハネス・ブラームス(1833~1897)

交響曲 第3番 ヘ長調 op.90

1876年から78年にかけて相次いで2つの交響曲を発表した後、ブラームスはしばしこの分野から距離を置いたが、およそ5年の時を経て、彼はふたたび交響曲の世界へ戻ってきた。1883年、ブラームスは夏の休暇をドイツの湯治場ヴィースバーデンで過ごした。この滞在は5月20日から10月2日までの4ヶ月超に及び、この期間に新しい交響曲が作曲されたとみられる。

作曲者自身は第3交響曲の成立にも、内容についてもほとんど沈黙しているが、8月下旬に彼を訪ねた指揮者ヴェルナーは、この時に新作の交響曲の存在を知ったと後に報告している。また、初演直前の11月27日に作曲者がある友人へ宛てた手紙には、この新作のことが「ヴィースバーデン交響曲」と記されており、同地滞在中に作曲が行われたことが読み取れる。

この交響曲はさまざまな標題的解釈がなされているが、いずれも第三者の印象解釈にすぎず、作曲者に直接由来するものではない。第1楽章冒頭の〈F-As-F〉音形を友人ヨアヒムのモットー〈F-A-E〉に結びつける広く知られた解釈も、その例外ではない。

この〈F-As-F〉音形は第1楽章中に繰り返しあらわれる重要な素材であるが、それに続く主要主題を特徴づけるヘ長調とヘ短調の頻繁な交代も、楽曲全体の調的コンセプトと関連している。すなわ

ち、第1楽章のヘ長調に対して第4楽章がヘ短調を主体としていることと、中間楽章もヘ長調(第2楽章)とヘ短調(第3楽章)という同主調関係におかれていることと共鳴しているのである。

ブラームスは楽器の扱いの巧みさを見過ごされがちだが、この交響曲ではクラリネットの調管による音色差の意識的な使い分け(第1楽章副次主題と第2楽章主要主題など)や、チェロとホルンのユニゾンによる暖かく雄大な音色(第4楽章副次主題)の発見など、創意工夫に満ちた試みを聴くことができる。

とはいえ、本作でもっとも独創的なのはフィナーレの幕切れだろう。第1楽章の主要主題が最弱音で弦の分散和音の中に溶け込み、純粋なヘ長調で回帰する終止法は、主題回帰の露骨さを回避しながら構造美を保証しつつ、聴き手を祈りと感謝の気持ちへと誘う。

岡田安樹浩 Text by OKADA Akihiro

作曲:1883年

初演:1883年12月2日ウィーン楽友協会大ホール、ハンス・リヒター指揮、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部

7/18 7/19

SAT

SUN

アントニン・ドヴォルザーク(1841~1904)

交響曲 第7番 二短調 op.70

交響曲第7番は、ドヴォルザークが危機的状况に置かれた頃に新たな手法を案出して書いた重要な作品の一つである。

1880年代には、オーストリア=ハンガリー二重帝国に住んでいたチェコ人とドイツ人(ドイツ語を母語とする住民)との対立が深刻化していた。経済力を高めたチェコ語を母語とするチェコ人が帝国国内での自治権を強く要求したことに、同地在住のドイツ人が不満を抱いたからだ。その結果、プラハなどのチェコ人が多数住むボヘミアの都市部でチェコ人とドイツ人との民族対立が激化しただけではなく、オーストリア帝国の首都だったウィーンやオーストリア=ハンガリー二重帝国以外のドイツ語圏でも反チェコ人感情が高まっていた。

同時代の芸術音楽の多様な語法を貪欲に取り入れる一方で、スラヴ諸民族の間で伝承されていた民俗音楽を利用して、民族的出自を十全に表現した作品を多数発表していたドヴォルザークもまた、当時の政治情勢に巻き込まれた。ウィーンのみならず他のドイツ語圏の都市でも自作の上演が忌避されて、作風を改める必要に迫られたからだ。確かに、交響曲第7番でも従来の作品と同様にチェコ人の文物に由来する音素材を用いている。実際、第1楽章と第4楽章では中世のチェコの聖歌《聖ヴァーツラフ》の旋律を用いた自作の劇的序曲《フス教徒》(1883)を、第3楽章では交響曲第6番(1880)の

第3楽章のようにチェコ人の農民舞曲であるフリアントのリズムを取り上げはした。だが、こうした音素材を際立たせることなく、楽曲全体の構造を支える要素として用いることで構築性が高い絶対音楽を書くという新たな路線を編み出した。そして、その際にはブラームスの交響曲 第3番を参照点としたのである。

第1楽章 アレグロ・マエストーソ。二短調。ソナタ形式。第1主題末尾の旋法的で特徴的なリズム音型が、全曲にわたって重要な役割を果たす。

第2楽章 ポコ・アダージョ。ヘ長調。三部形式。歌謡的な旋律に基づく第一の部分と多様な転調を繰り返す中間部とのコントラストが印象的。

第3楽章 スケルツォ。ヴィヴァーチェ。二短調。4分の6拍子。三部形式。2拍子と3拍子のリズムが交替するフリアントのリズムを駆使しつつも、歌謡的な性格が強い。

第4楽章 フィナーレ。アレグロ。二短調。ソナタ形式。重苦しい第1主題と民謡を彷彿とさせる明るい副次主題とが対比されている。

中村 真 Text by NAKAMURA Makoto

作曲:1884年12月13日-1884年3月17日(1885年春に第2楽章を改訂)

初演:1885年4月22日セント・ジェームズ・ホール(ロンドン)、ドヴォルザークによる指揮
改訂版の初演は、1885年10月21日、チャールズ・ハレによる指揮

編成:フルート2(ピッコロ持替)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部

ブラームスとドヴォルザーク

二人の作曲家を

結ぶもの

文 西原稔(音楽評論家)

Johannes Brahms × Antonín Dvořák

ブラームスはドヴォルザークの才能に深い共感を覚えるだけではなく、自身の音楽の後継者として彼をみていた。それはブラームスが一時、自身の遺産をドヴォルザークに遺贈することを考えていたことにも示されている。

ブラームスとの出会い 創作への影響

ブラームスがドヴォルザークを知ったのは、オーストリア国家奨学金に応募したドヴォルザークの作品を審査したことに遡る。1875年3月からブラームスは国家奨学金の審査員をつとめることになる。このとき提出されたのは《モラヴィア二重唱曲》作品20である。民謡を深く愛好するブラームスはこの作品を高く評価し、国家奨学金受給者としてドヴォルザークを推挙するとともに、出版社のジムロックに対して楽譜出版の仲介の労をとった。こ

の時の手紙には「ドヴォルザークはオペラ、交響曲、弦楽四重奏曲、ピアノ曲などを作曲しています。とにかく彼はとても才能に恵まれています。でも彼は貧しいのです。私は貴殿にこの《モラヴィア二重唱曲》についてご検討をしていただけるようにお願いします。」と記され、ブラームスは奨学金審査のために提出された作品の他にもドヴォルザークの創作をよく知っていた。

ドヴォルザークがブラームスと出会う以前に、彼がもっとも傾倒していたのはむしろワーグナーであった。彼の《交響曲第3番》作品10はワーグナーからの影響をよく示しており、同第4番作品13もワーグナーとの結びつきを示している。しかしブラームスの理解と支持を得たことでドヴォルザークの創作にも変化がみられるようになる。1875年に作曲された《交響

ブラームスとドヴォルザーク二人の作曲家を結ぶもの

曲第5番》作品76はまだワーグナーからの影響はみられるものの、作風の変化がみられる。そして1876年に作曲された《ピアノ協奏曲 ト短調》作品33には、動機の展開手法の点でブラームスからの影響を示している。1878年に作曲された《弦楽六重奏曲 イ長調》作品48はブラームスの2曲の弦楽六重奏曲を背景にしている。このジャンルを確立したのはブラームスで、それを受け継いだ最初の作品がイ長調のこの弦楽六重奏曲である。

ドヴォルザークは、最初はワーグナーの作品に魅せられたように、さまざまな音楽傾向に対して広く関心を持っていたが、そのなかでブラームスとの結びつきを通して、古典的なソナタ形式や対位法を深く学んだ点は重要で、彼のその後の室内楽や交響曲の創作にその成果が反映されるようになる。

次の段階の創作で注目されるのは、《交響曲第6番》作品60である。1880年の作曲で、第1楽章や第4楽章にブラームスの《交響曲第2番》からの影響がみられ、第3楽章がチェコ舞曲のフリアントであることも注目される。彼はこの作品の作曲の2年前に、ブラームスの紹介を得て、《スラヴ舞曲集 第1集》を作曲し、1879年にそれが刊行されたこともこの交響曲の創作に影響している。ブラームスはスラヴ地域の舞曲を愛好し、《ピアノ四重奏曲第1番》や同第2番のフィナーレではハンガリー舞曲を取り入れ、《クラリネット五重奏曲》の第2楽章にもハンガリーの民俗音楽の表現が用いられている。

ブラームスからの影響と離反

ブラームスの表現の影響は1883年に完成した《ピアノ三重奏曲第3番 ヘ短調》作品65において明らかである。この作品は、非常に構築的な作品で、緊張感あふれる作品展開は、1884-85年に作曲された《交響曲第7番 二短調》作品70と似た傾向を示している。その背景をなすのは、1883年のブラームス訪問である。ドヴォルザークは、ウィーンのブラームスの家で完成間近の《交響曲第3番》をブラームス自身のピアノ演奏で聞き、大きな衝撃を受けている。ドヴォルザークのこのピアノ三重奏曲はピアノの担う役割が非常に大きく、そのダイナミックな表現は、明らかに彼がブラームスの作品を研究したことを示している。

しかし、その後の彼の創作は大きな変化を示す。それを象徴するのが1891年完成の《ピアノ三重奏曲 第4番「ドゥムキー」》作品90である。それまでの創作におけるブラームスとの関連から自由になり、緩急が自在に交代するその表現は同第3番の緊張感とは対照的で、ボヘミアの自由な雰囲気を感じさせる。そして、1890年に初演された《交響曲第8番》作品88も、ブラームスの影響とは異なるスラヴの民謡的な表現と彼の持ち味である明朗さが良く発揮されている。ドヴォルザークは、ブラームスとの出会いとその影響を重要な土台としつつ、祖国ボヘミアの独自の表現への追求の中から、彼独自の個性的でコスモポリタンの表現を確立したと言えるであろう。



2004年8月28日東京オペラシティシリーズ第26回
永久名誉音楽監督秋山和慶を囲んで。

追悼 最高顧問 金山茂人

弱きに優しい 「ミスター楽団長」 オーケストラで 働く誇り、未来へ

金山さんが亡くなったと聞いた日は、台風上陸前の不気味な突風が吹いていた。ひゅんひゅんという音と、「ガハハハ！」という忘れ得ぬ金山さんの笑い声が、あやしいデュオを奏でているように思えた。

あの怪鳥のような「ガハハハ！」が、ユーモアを是とする東響というオーケストラの象徴だったなどと言うと、楽員のみなさんに叱られるだろうか。東響の元ホルン奏者、チャーリー犬和田こと大和田浩明さんが自主制作したクラシック版スネークマンショー、コントとパロディ満載のCD「夜はトリハダ」でも「ガハハハ！」は見事にコラージュされている。

金山さんは、常に不機嫌を装っていた。自著のタイトルも、「楽団長は短気ですけど、何か？」と不機嫌さ全開。多くがたぶん、照れ隠

しだった。役者だった。歌舞伎俳優が見得を切る瞬間のようないかめしい表情で、いつも公演の入り口に立っていた。

ここ数年、めっきり酒に弱くなったとボヤきつつ、「また（飲みに）行きましょうよ」と言うのと、やっぱり「ガハハハ！」と条件反射のように笑ってくれた。

弊紙に訃報を掲載した翌日、九州交響楽団で営業や広報等のエースとして奔走するリシエツキ多幸さんからメールが届いた。「あまりにもショックで」と。日本オーケストラ連盟の総会などで東京に行くたび、食事をご馳走し、励ましてくれたのだという。

彼女のみならず、日本のあちこちに、歯を食いしばってオーケストラ文化を支えている若い世代がまだまだいる。金山さんは、そういう存在にしっかり心をかけていた。ガンコで、正義感が強く、弱きに優しく、そしてちょっぴり女性に弱い。まさに「ミスター楽団長」。昭和のヒーローだった。

「国は黙って文化に金を出せばいい」など、今なら暴論と言われかねないことも、迷いなく言い切った。「金山さん、もうそんな時代じゃないですよ」などとたしなめている私の方が、実は何かに忸度しているような、微妙に純度の低い生き方をしているような、そんな後ろめたい気持ちがしてきたものだった。

文化の現場が、補助金等々で肩身の狭い思いをすることが多い今こそ、金山さんがきつと言いたかったであろう「遺言」を、僭越ながら代弁させていただきたい。オーケストラは、みんなの心の幸福に、人類の未来に貢献する文化である。オーケストラのために働くということに、もっと誇りを。ほら、もっと胸を張りなさい。ガハハハ！

吉田純子（朝日新聞本社コラムニスト、編集委員）

東京交響楽団サポート会員

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

※新会員の方です。ありがとうございました(6月20日現在。五十音順)。

ご
芳
名
(敬
称
略)

法
人
会
員

●プラチナ会員

株式会社ティー ワイ リミテッド	株式会社ドワンゴ
株式会社フェイス	

●ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人	環境ステーション株式会社
株式会社伊藤総合事務所	株式会社すかいらくホールディングス
株式会社イノアックコーポレーション	株式会社日本財託
株式会社インサイド・アウト	株式会社パソナグループ
株式会社エイチ・アイ・エス	株式会社雅玖仁

●ゴールド会員

株式会社青山メインランド	西松建設株式会社
株式会社あ佳音	株式会社NIPPO
オリエンタル酵母工業株式会社	株式会社日本M&Aセンター
サントリーホールディングス株式会社	ヒノキ新薬株式会社
社会医療法人財団石心会	司法書士法人ふなざき総合事務所
玉川学園・玉川大学	ミヨシ油脂株式会社
中外製薬株式会社	ヤマザキビスケット株式会社
株式会社TFDコーポレーション	ヤマト科学グループホールディングス
株式会社鉄鋼ビルディング	税理士法人WATANABE
株式会社トーシンパートナーズ	

●シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト	月島食品工業株式会社
公益財団法人青梅佐藤財団	東京鐵鋼株式会社
川崎信用金庫	司法書士法人村田事務所
松竹株式会社	

●ブロンズ会員

アーティスト ホールディングス株式会社	ニッシンエレクトロ株式会社
株式会社ヴァリューズ	富士フィルムビジネス
NPO法人かわさき市民アカデミー	イノベーションジャパン株式会社
株式会社シグマコミュニケーションズ	神奈川支社
新宿村スタジオ	前山歯科医院
有限会社青史堂印刷	株式会社LALLヒューマン ホールディングス

賛助企業

政鬼運輸株式会社	山崎製パン株式会社
----------	-----------

匿名3社

●サークル50

伊藤 晴美	木暮 紀子
伊藤 美樹	清水 尚彦
沖田 陽子	山口 積恵
鷺海 量明	匿名 5名

●サークル25

荒木 陽子	手塚 和彦
猪田 隆文	戸川 二郎
井上 孝昭	長瀬 雅則
岡野 一哉	平山 智史
加藤 英輔	山本 誠一郎
後藤 実	匿名 2名

●サークル10

天野 佳和	高津 麻子
五十嵐 建平	幸一
井澤 菜緒子	琢己
石川 晴依世	正行
岩田 新	之博
内山 誠彦	忍建一
梅沢 麻衣	谷川 啓
遠藤 秀和	明雄
大城 明幹	清
大崎 明子	角田 直子
大島 純子	中澤 守正
太田 具幸	豊
大塚 浩	倉祥
岡 邦子	成瀬 公男
尾崎 茂	西谷 美保子
片山 千栄	枇杷 高志
金山 尚弘	星 久人
金子 元	*堀江 智巳
金田 好生	増岡 聡一郎
木賀 賢市	水越 睦美
菊池 光剛	森口 京子
木内 正則	森下 健
小林 光健	森下 国彦
丸丸 和喜夫	八嶽 昭典
近藤 秀子	山本 重雄
斎藤 佐々木	利勝 重雄
佐野 真	吉江 治彦
清水 幹雄	吉村 美恵子
白井 恭一	米岡 修一
鈴木 信恵	匿名 12名
高澤 美貴子	
高田 光宮	

●フレンズ5

東 恭代	大野 紀子
有江 純子	和彦
石原 祥子	雄一
潮田 伊織	愛
大川 朋彦	義彦

塩澤 誠司
高際 比呂志
寺西 基之

中尾 守
中島 信男
早川 利郎

松信 正志
村松 秀幸
山口 聡

山田 修造
山本 喜良
吉田 哲四郎
匿名 3名

●フレンズ3

秋山 真一郎	加藤 由美子	須田 眞理子	藤田 栄
明田 重樹	兼子 仲彦	根 三善	野 盾臣
荒 洋一	菊池 伸治	高坂 麻由み	森 朗
石澤 卓志	木鍾 万裕	内田 あゆみ	藤 一彦
井上 聡	北川 洋	田山 美貴子	松 正典
岩瀬 純	久保 光司	都築 豊	三橋 拓郎
大崎 透	小泉 博	富田 博之	村田 健治
大塚 啓司	河野 太	富永 直彦	岡 暄子
大埜 展男	小村 孝	元嗣 幸雄	*安原 秀彰
大橋 昌資	古杉 絢	中村 洋一	数下 真平
岡本 直毅	小平 信因	永井 悦子	山中 喜義
小川 康恭	小林 智代子	西田 尚弘	鏡水 美お
奥瀬 篤	小山 悦子	西本 尚一	横尾 順
奥田 桂子	佐藤 健司	根本 暢明	横沢 宗寿
小澤 俊文	清水 元良枝	野島 秀太郎	吉田 真紀子
尾島 夕里	清水 浩	美奈子 昭夫	吉富 美紗恵
小田切 明子	新保 弘也		吉原 真理
皆瀬 修	杉田 忠明		Max Wong
加藤 政晴			匿名 27名

●フレンズ1

■あ	岩野 裕一	岡田 政頼	川野 安子
相磯 亮	岩本 亮	岡田 正徳	菅野 広和
赤坂 美穂	白居 正昭	岡野 美穂	菅野 雄平
秋元 淳志	岡本 重男	小川 勝利	岸本 裕子
朝倉 文男	内海 誠	小川 幾子	北村 眞
浅見 安達	宇野 正芳	沖 知子	北村 亮平
阿部 郁夫	梅里 拓志	奥秋 和歌子	木下 好一
生田 裕一	梅崎 耕元	奥泉 亮子	木村 強
池田 弘毅	梅本 千枝子	奥田 由美子	木村 富士子
石川 祐子	江藤 雄彦	奥貫 壮史	清田 一正
石丸 浩平	大泉 成美	小倉 克彦	久保 理子
石渡 政徳	大川 剛	小野 茂	倉谷 宏樹
井手 幸一郎	大島 克義	小野 雅恵	栗原 潔
伊藤 勉	大島 初彦	小野 信也	小糸 健治
伊藤 雅博	大島 康彦	小野 英樹	小国 美里
伊藤 貴代	大須賀 純二	尾野 慶	国府 保周
稲垣 順一	大友 聖恵	■か	小寺 淳乃祐
稲葉 順一	大友 聖恵	海藤 慶子	小西 敬四郎
井上 康子	大友 聖恵	香南 大樹	小沼 恭二
今井 正	大友 聖恵	角山 美知子	小林 光一
今宮 邦男	大友 聖恵	葛城 伸一	小林 宏州
今村 知子	大友 聖恵	加藤 聖隆	小林 浩
岩澤 淳子	大友 聖恵	加藤 洋子	近内 光一
	大友 聖恵	加藤 里加	*小林 秀樹
	大友 聖恵	川上 善行	近内 友史子
	大友 聖恵	川口 康一	後藤 敏秋
	大友 聖恵		後藤 裕二

東京交響楽団サポート会員

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

※新会員の方です。ありがとうございます(6月20日現在。五十音順)。

■さ
齊木 一宏
齋藤 ひろ子
酒井 博
坂本 典子
前刀 タカ子
櫻井 禎明
桜林 智仁
佐々木 哲生
佐々木 通博
佐々木 基
佐藤 香
佐藤 幸一郎
佐藤 信一郎
佐藤 勝
佐藤 大助
佐藤 孜
佐藤 深雪
佐藤 美和子
佐藤 由紀子
重成 瞳
茂野 俊郎
穴戸 宗太
篠田 一朗
柴橋 俊也
波川 朋子
嶋谷 宏明
知里 重夫
清水 崇
志村 和代
下田 一彦
庄司 大
白石 ひろみ
新藤 啓次
杉山 慎二
鈴木 慶子
鈴木 啓介
鈴木 康史
鈴木 孝治
鈴木 隆之
鈴木 智子
鈴木 美和
鈴木 諷訪
清水 達
清水 穂名美
関 洋
関口 あずみ
■た
高岡 美保
高木 一茂
高木 和敏
高木 敏和
高木 晴彦
高野 洋二
高橋 勝弥
高橋 嗣奈子
高橋 美穂
高橋 有一
高橋 ユリコ
高橋 里奈
高松 則雄

*高村 勝仁
高森 幸男
竹内 聖子
竹内 真也
竹内 みお
竹内 竜太
竹内 和彦
竹腰 正隆
竹下 裕行
武尾 和太
代田 沙智子
代田 遼太郎
多田 泰三
田中 敬子
田中 淳
田中 恒美
田邊 禎二
田邊 鈴恵
田淵 泰弘
玉井 正浩
千田 晴久
千葉 絵里
塚田 和男
塚田 寛
築館 玲子
辻 直浩
辻内 牧子
坪井 洋一
寺田 治男
遠山 淳夫
遠山 明史
韮森 祥悟
豊島 峯生
島居 順子
島居 夕紀夫
■な
中沢 忠
長瀬 利明
永田 郁子
長濱 通子
西岡 直実
西岡 初美
西岡 昌紀
西川 晶
西中 淑子
西村 真
西村 陽子
西山 英昭
根本 直之
野口 信弘
野島 紀久
野村 一成
野村 真澄
■は
橋爪 千鶴子
橋本 和雄
橋本 恵人
長谷川 寿一
長谷川 博
長谷川 真
秦 実
早川 明男

林 博
林本 秀範
原 ひとみ
*原 正道
原田 慶子
原田 容子
春川 京子
半谷 方枝
坂東 泰子
肥後 恵子
榎谷 亜樹
平田 行雄
廣岡 真由美
廣瀬 泰文
廣中 直行
深沢 茂実
藤生 容子
藤原 正之
古市 雄二
古川 郁子
古澤 美樹
古屋 清敏
文 永清
星 直樹
細川 由利子
堀川 信子
本多 真世
■ま
真木 太郎
幕田 正司
棚田 明
升元 美和
松浦 和弘
松岡 順子
松崎 子聡
松澤 繁
松本 純
松本 麻子
三浦 弘
水野 晴彦
水谷 純子
三田 恭博
峯岸 悦子
宮坂 健司
宮崎 哲
宮崎 信夫
宮崎 昇
宮寺 好江
*向尾 三男
村上 誠司
*村上 泰大
村本 信幸
村本 里美
森 政和
■や
柳沼 美智子
坪井 優子
安永 友幸
柳本 裕児
山縣 勇一郎
山口 学

山崎 由美子
山田 美生子
山本 恵子
湯川 博
湯川 俊明
横田 初恵
吉居 秀修
吉江 健志
吉岡 真紀子
吉田 暢子
吉田 裕
吉富 美紀

吉見 享
吉見 幸子
米田 徹光
米田 恵子
米村 由起子
米谷 敦郎
渡辺 朋子
渡邊 T.Saito
匿名 158名

■栄誉会員

ヨーコ・ナガエ・チェスキーナ

遺贈・相続ご寄付(敬称略)

竹内 容子 岡橋 純男
齊藤公治 岡橋 孜
メモリアル基金

法人定期会員

【定期演奏会】
東京コンテナ工業株式会社

【東京オペラシティシリーズ】
SATO社会保険労務士法人



特別後援会員制度のご案内

当楽団では公演の1営業日前までにご欠席の連絡をくださった方には、入場券代はお返し致しますが、特別後援会員として1年間定期公演のプログラムにお名前を掲載させていただきます。当団主催公演の入場券を5%引き(TOKYO SYMPHONY チケットセンター扱いのみ)にてお求めいただけます。お求めの際に特別後援会員であることをお申し出ください。なお、対象となる演奏会は当団が指定する主催公演です。

都築 豊 松永 勝宏
坪井 安一 森山 雅一郎
東 由美子 匿名 16名
藤井 照子 (敬称略)

ご連絡はTOKYO SYMPHONY チケットセンター
044-520-1511へお電話をお願いいたします。

東京交響楽団サポート会員制度

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。

そのために不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1 年額1万円～29,999円	フレンズ3 年額3万円～49,999円	フレンズ5 年額5万円～99,999円
サークル10 年額10万円～249,999円	サークル25 年額25万円～499,999円	サークル50 年額50万円～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ 年額10万円～	シルバー 年額30万円～	ゴールド 年額50万円～	ダイヤモンド 年額100万円～	プラチナ 年額1000万円～
------------------------	------------------------	------------------------	---------------------------	--------------------------

会員特典

詳細はHP、
又はお電話でお問合せ下さい

	法人会員	サークル会員	フレンズ会員		
			フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内	○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)	○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)	○	○	○	○	○
ご芳名掲載	○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約 ^{*1}	○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内 ^{*2}	○	○	○	○	○

^{*1} 一部対象外もございます。^{*2} 東京交響楽団の主催公演およびミュージアム川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分^{*3}について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。^{*3}

^{*3} 但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ **TEL 044-520-1518**

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

楽団員紹介 Meet the Musicians

音を重ねる喜びを胸に、豊かな響きを紡ぐヴァイオリニスト

吉田 みのり

YOSHIDA Minori

〔第2ヴァイオリン〕2025年9月入団

趣味：カフェ巡り、ケーキ作り、アニメ鑑賞



©N. Ikegami

美しさに導かれて

幼い頃からクラシック音楽が日常に流れる家庭で育ちました。母に勧められて訪れた音楽教室でヴァイオリンに一目惚れし、5歳から習い始めました。きっかけはその美しい見た目でしたが、次第に音色や響きの奥深さにも魅了され、自然とヴァイオリンが生活の中心になっていきました。

中学生の頃、師事する先生との出会いや周囲の刺激を受け、発表会やコンクールに積極的に参加するようになりました。その頃聴いたプロオーケストラの演奏——マラー《交響曲第1番》に大きな衝撃を受け、一人では生み出せない音の重なりが生む大きなエネルギーに心を動かされ、「いつかオーケストラの一員になりたい」と強く思うようになりました。

その後、桐朋女子高等学校音楽科に進学し、個人レッスンに加え、室内楽やオーケストラ実習を通して、仲間と対話しながら音楽をつくる喜びを学びました。特に当時初めて演奏したブルックナー《交響曲第4番》では、全体の響きの中で初めて見える壮大な風景に触れ、自分が大きな音楽の一部となる感動を覚えました。

大学では、サントリーホール室内楽アカデミーへの参加を通じて、複数の先生方から学びながらアンサンブルの技術を磨きました。その中で印象に残っている言葉があります。「楽譜は作曲家からのダイニングメッセージ」。この言葉は、楽譜をただ正確に再現するだけでなく、その奥に込められた作曲家の思いや感情を読み解くことの大切さを教えてくれました。大学卒業後は桐朋オーケストラ・アカデミーやPAC

レジデント・プレイヤー、さらにウェールズ・アカデミーでの学びを通じて経験を重ねていきました。

このオーケストラの一員として

東京交響楽団は、楽団員一人ひとりが心から音楽を楽しみ、生き生きと演奏している姿がとても印象的です。その真摯な姿勢に日々刺激を受けながら、このオーケストラの一員として謙虚に学び、より豊かな音楽を届けていきたいと思っています。

甘いものと、ささやかな創作の時間

甘いものが好きで、休日には友人とカフェを巡ることが楽しみのひとつです。また、料理好きな母の影響で、家族の誕生日には子どもの頃から手作りのケーキを作っています。どんなデコレーションにしようか考える時間は、今も大切なりフレッシュのひとつです。アニメを見ることも好きで、楽団員におすすめを教えてもらいながら、新しい作品との出会いを楽しんでいます。



インタビュー：事務局

NEWS & TOPICS

理事就任

2026年6月23日付

若本博隆 WAKAMOTO Hirotaka
[株式会社パナソニックグループ 代表取締役会長CEO]



神奈川県生まれ。大阪育ち。関西学院大学経済学部卒業。2006年より株式会社パナソニックグループで経営企画や成長戦略を担い、取締役副社長執行役員COO、代表取締役社長CEOを歴任。2025年8月に代表取締役会長CEOへ就任。現在は、アマチュアのジャズのビッグバンドにてアルトサックスを担当。

評議員就任

2026年6月23日付

森川 智 MORIKAWA Satoshi
[ヤマト科学グループホールディングス 株式会社 代表取締役社長]



早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。新日鐵を経てヤマト科学に入社し、現在はヤマト科学グループ各社の代表取締役社長を務める。経済同友会幹事、日本環境アレルギー学会理事等を兼任。高校時代は学生オーケストラのコンサートマスター、大学ではグリークラブ(男声合唱)の学生指揮者として活動した。趣味は音楽鑑賞とピアノ演奏。

正楽団員

2026年7月1日付

内岡沙月 UCHIOKA Satsuki [コントラバス奏者]

桐朋学園大学卒業、桐朋オーケストラ・アカデミー研修課程修了。アカデミー在籍中、成績優秀者による学生リサイタルへ出演。小澤征爾音楽塾、PMF、いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭等へ参加。



©Nikogami

中高生無料招待

東京交響楽団では、文化庁「劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」の一環として、対象公演に中高生の皆さまをご招待いたします。新音楽監督ロレンツォ・ヴィオッティとともにお届けする特別な演奏会を、ぜひこの機会に。若い世代の皆さまのご来場を、楽団員一同心よりお待ちしております。

年末年始公演、発売開始!

《クリスマスコンサート2026》《第九2026》《ニューイヤーコンサート2027》がいよいよ発売開始。完売必至のため、ぜひお早めに良いお席をお求めください。

<チケット発売日(5公演全て)>

東響会員先行発売: 7/8(水)10:00
オンライン先行発売: 7/10(金)10:00
一般発売: 7/16(木)10:00

対象公演

2026年9月13日(日)
東京オペラシティシリーズ 第152回
14:00 東京オペラシティ コンサートホール

対象

2008年4月2日~2014年4月1日生まれの方
先着約100名(お一人につき2名まで申込可)

申込方法

右記の「申込フォーム」より
お申込みください
(先着順・定員になり次第締切)。

[申込フォーム]



同伴者

同伴者1名まで、対象座席を半額でお申込みいただけます。※別途送料・払込手数料がかかります。

ご注意

ご来場時に年齢確認書類(学生証可)の提示が必要です。お申込みはご本人のみ有効(譲渡不可)。詳細・最新情報は東京交響楽団ウェブサイトにてご確認ください。

詳細はこちら



※「クリスマスコンサート」には、子どもたちへの招待席をご用意しています。詳細は公式サイトをご確認ください。

5年ぶりの横須賀公演、開催が決定!

よこすか芸術劇場リニューアル記念 東京交響楽団 横須賀特別演奏会

音楽監督ロレンツォ・ヴィオッティとともに、東京交響楽団5年ぶりとなる横須賀公演を開催いたします。

10/12(月・祝) 14:00 よこすか芸術劇場

指揮:ロレンツォ・ヴィオッティ
J.S.バッハ(斎藤秀雄編):シャコンヌ
ショスタコーヴィチ:交響曲 第10番

<チケット発売日>

東響会員先行発売:7/9(木)10:00
オンライン先行発売:7/15(水)10:00
一般発売:7/17(金)10:00



NEXT PROGRAM

8/8

SAT

東京オペラシティシリーズ 第151回

14:00 東京オペラシティコンサートホール

指揮:デイヴィッド・レイランド

モーツァルト:歌劇「フィガロの結婚」から序曲

モーツァルト:交響曲 第29番

モーツァルト:交響曲 第40番

¥7,500 A¥6,500 B¥4,500 C¥3,500



8/22

SAT

第744回 定期演奏会 残席僅少

18:00 サントリーホール

8/23

SUN

川崎定期演奏会 第106回 残席僅少

14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

指揮:ピエール・ブリュース

ピアノ:角野隼斗

角野隼斗:ピアノとオーケストラのための小品(仮題・世界初演)

カプースチン:ピアノ協奏曲 第4番

ベルリオーズ:幻想交響曲

[8/22] ¥8,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥4,500 P¥3,000

[8/23] ¥8,500 A¥6,500 B¥4,500 C¥3,500 P¥3,000



TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511 (平日10:00~18:00 / 土日祝休)



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA
Lorenzo VIOTTI, Music Director



東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ



公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミュザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開、教育プログラム「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ59都市83公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取り組みも音楽界をリードしており、2020年ニコン生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45台カメラを用いた《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。特に、2022年よりスタートした「R. シュトラウス コンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出されるなど大絶賛を博した。

桂冠指揮者にユベール・スザン、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。

2026年4月よりロレンツォ・ヴィオッティが第4代音楽監督に就任。

Founded in 1946 as the Toho Symphony Orchestra, the ensemble adopted its current name, the Tokyo Symphony Orchestra, in 1951. It presents subscription concerts at Suntory Hall, Muza Kawasaki Symphony Hall, and Tokyo Opera City Concert Hall, and has received nearly all major music awards in Japan, including the Minister of Education Award. In addition to serving as the resident orchestra of the New National Theatre, Tokyo, the orchestra is actively engaged in collaborations with local governments such as Kawasaki City and Niigata City, as well as in a wide range of community and educational programs, including the "Kodomo Subscription Concerts" and Kids Programme ~Orchestra Experience from the age of "0 years". Its international activities, including performances at the Musikverein in Vienna and the "Asia Project," have also attracted considerable attention.

The orchestra has further distinguished itself as a leader in digital innovation within the classical music world, being the first Japanese orchestra to launch a music and video streaming subscription service, as well as introducing VR orchestra experiences and electronic ticketing. In 2020, a live-streamed concert without an audience on the Nico Nico Live platform drew approximately 200,000 viewers, and in December 2022, its performance of Beethoven's Symphony No. 9—filmed with a record 45 cameras—garnered widespread attention.

In recent years, the orchestra has attracted significant attention as one of Japan's leading orchestras. In Ongaku no Tomo magazine's "Top 10 Concerts," Salome (2022) was ranked second, followed by Elektra (2023), which was ranked first. The third and final of the project, Der Rosenkavalier (December 2024), also received outstanding critical acclaim.

Lorenzo Viotti becomes 4th Music Director in April 2026.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】



NICO NICO TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト「TSO MUSIC & VIDEO SUBSCRIPTION」
1か月550円(税込)



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

Symphony

Symphony 2026年(令和8年)7月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764

<川崎オフィス>

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310

ミュザ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネスクリエイト

このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮した
ユニバーサル・デザインフォントを使用しております。